20201213レムナント教会1部

**賛美する信者(Ⅱサムエル記22:1-3,50-51)**

　ダビデは国内に様々なことがありましたが、神様の恵みによって落ち着き、安定を取り戻すことになりました。それを機に本来ダビデがやるべき外部の敵を収める仕事に出て、そして、神様の恵みによってその敵に打ち勝って勝利を収めることになります。このような様々なことがありましたが、結局神様が勝利を与えられたということです。ダビデが神様をほめたたえ、神様に賛美を捧げる場面です。賛美というのは良いことがあるから単純に賛美するのではなくて、神様の勝利をたたえるものなのです。ダビデの賛美の内容を見ますと、そのスタートの所にも記されているように、サウルにも勝利を与え、敵も打ち勝つようにして勝利を与えたとその神様の勝利をたたえる賛美、それこそが信者にとってまことのいやしとなり、そして、これから次の勝利、より大きな勝利につながる力になるものです。そういう意味で、ダビデの賛美を見ながら私たちひとりひとりが本当に神の勝利をたたえるクリスチャンになりたいと願います。

　神様はどのように勝利なさったでしょうか。まず第一に、神様は根本的に勝利を収めたお方です。その神様の根本的な勝利を心からたたえてそれが賛美に変わるときに天使が動員され、皆さんにいやしの祝福が与えられ、この世を見る目が変わるようになります。世的な言葉で申し上げますと、私たちのたましいが浄化されるような感じでしょう。その表現が聖書的にふさわしいかどうかは検討しないといけませんけれども、このように神をたたえて神様を賛美しましょう。神様は根本的に勝利なさいましたと。と言いますのは、私たちは根本的に敗北者であり、根本的にダメな存在だったということでしょう。忘れてはいけません。霊的なことなのでついつい肉の本性に惑わされていた私たちはこれを忘れてしまいます。そうすると、神様を、神の勝利をほめたたえることができません。神の勝利をほめたたえることがなければ、勝利者であるのにもかかわらず敗北者のように人生を振り回されるようになります。私たちは神のかたちに造られたのに、創世記3章においてその神に背いて、悪魔に惑わされて、罪を犯して回復できない絶望の滅びの運命に捕らわれることになりました。どんなに頑張っても努力しても、どんなに修行してもその根本には勝てないものなのです。実は世の中にいろいろな人がいて、世の基準から評価したときには良い悪い、すごいダメ、いろいろあるでしょうけれども、この世から称賛されるどんな人間でも根本的には敗北者なのです。それなのに神様は、人間の力ではどうしようもない根本の敗北から勝利を収めたお方です。創世記3章の原罪によってエペソ2：1-3にあるように、たましいは死んだ状態であり、悪魔に従って世の風習の奴隷となって生きるしかない、生まれながら神の御怒りを受けるしかない存在になってしまいました。どうしましょう。ヨハネ8：44、「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者」です。認めたくないでしょう。まさか自分が、と思うかもしれません。そうすると、根本的な勝利をたたえることにはなりません。そうすると、残念ながら目に見えないけれども悪魔にまたやられてしまうのです。悪魔はクリスチャンの私たちには相手にならないものです。でも、私たちが勝利者だという確信がなければ、いくらでも私たちを操ることができるものなのです。だから、神の勝利を確信して、正しく理解して、その勝利が自分の勝利なのだということをどのような状況でも確信するようにしなければなりません。このように絶望的にどうしようもない敗北の状態から、勝利のために神様は約束されました。創世記3:15、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く、そして、これがその通りに成就されました。Ⅰヨハネ3：8、神の子イエスが現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。このように勝利なさいました。十字架の上で血を流されて、お墓の中に葬られ、三日目によみがえられることによって死の力を完全に打ち破って勝利なさいました。へブル10：14には、「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです」とあります。勝利されました。イエス様ご自身が自らおっしゃいます。ヨハネ16：33、世において患難に預かりますが、勇敢でありなさい。なぜかと言うと、もうすでにわたしは世に勝っているからとおっしゃいました。そのことを一番わかりやすくおっしゃったのが、ヨハネ19：30、十字架の上ですべてを「完了した」と勝利の宣言をなさいました。これが私たちの耳に聞こえないのでしょうか。いつでもどんな状況でも風邪をひいている時でも元気な時でもこれが聞こえてこないといけません。聖書に書いてある文字ではなくて、神はキリスト・イエスを通して根本的に勝利なさいました。これをたたえることなのです。

　どのようにたたえればよいでしょうか。それをたたえる第一の順番が何かというと、イエス・キリストを認めて、勝利者として認めて、自分の救い主として認めることなのです。受け入れた人々、すなわち、その名を信じた者には、神の子どもになる特権が与えられる。その瞬間、ローマ8：1-2にあるように、今までは死と罪の原理に捕らわれてどうしようもない敗北者だったのに、この勝利者イエス・キリストを受け入れることによって、死と罪の原理からいのちと御霊の原理によって完全に解放され、自分も勝利者となります。このイエス・キリストの勝利を受け入れることによって、この勝利者のイエスが私の内側に入って来られるので、その勝利が私の勝利となります。「でも、先生。私はまだ成績もどうしても上がらないし、嫌な性格を直そうとしてもなかなか直らないし、病気もあまり改善されていないし、経済的にも通帳の数字が三桁以外になかなかならないし...」と思うかもしれません。それでもそういうことと関係なく、根本的に勝利者なのです。そこを忘れてはいけないし、それをたたえるわけです。だから、この勝利をたたえる者はこのように大胆に叫ぶわけです。Ⅰコリント15：55-57、「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。死も私たちを食い尽くすことができません。今までは今現在もすべての人類が死の力に対して敗北者なのです。でも勝利者イエス・キリストを受け入れたクリスチャンはその死に打ち勝って勝利しているものなのです。これをほめたたえることです。自分のどうのこうのを見る以前に、キリスト・イエスを通して成し遂げられた神の勝利を心からたたえてみてください。悪魔はそれができないように私たちに傷や古いものや今まで習ってきたいろいろな理論などを通して、あるいは状況などを通して、感情などを通して、その賛美ができないように邪魔するわけです。その賛美ができないでいると、話のつじつまが合って、どんなに理屈に合う話であっても敗北者になってしまうのです。人生は目に見えるものだけではありません。霊的な世界が動いているわけです。無知な者のように、歯を食いしばって、目をつむって、何がどうであろうが一番最初に神の勝利をほめたたえましょう。それが霊的な戦いです。気持ちや感情がついていかなくても、まずほめたたえないといけません。

　このような勝利者なので、エペソ1：23にあるように、すべてを満たす方によって満たされるキリストのからだなる教会です。どれほど勝利したのかというと、今まではこの世の奴隷であり敗北者だったものが、この世にキリストの光を放つことができるキリストのからだなる教会として変えられるようになりました。それが可能なくらい勝利者なのです。神様の根本的な勝利、誰も口出すことができない勝利、それをほめたたえましょう。そして、その勝利が自分の勝利だということを認めて、クリスチャンとともに賛美を捧げましょう。神様はこのような根本的な勝利をもって、今現在、現実の中で、勝利を与えられる方です。現実の勝利というものは、何かがうまくいったということもあるでしょうけれども、この根本的な勝利が力強く現れるということなのです。この根本的な勝利が適用されると、この根本的な勝利によって現実がどうであろうがそれに負けないということです。私たちは今までご利益や因果応報に慣れているので、これがあれば...これがなくなることがハレルヤ...ということしか分かっていません。それでは現実の勝利をたたえることはなかなか無理なのです。クリスチャンでも現実に様々なことがありますので、それにいちいちつられて反応していますと、どこで勝利を見ることができるのでしょうか。しかし、神様はどのような現実がやってきてもそこで勝利を与えられる勝利される方です。私たちは根本的な勝利を収め、神の子どもであり、幸いな者であり、勝利者であるのにもかかわらず、地上にいる間には弱さを抱えています。肉体の限界を持っています。古き様々な体質に惑わされるときもあります。しかし、それが問題になりません。Ⅱコリント4：16、「ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています」。外なる人が衰えるというのは、自分の弱さ、外部からの様々な攻撃、いろいろあります。人間的に考えるとそれはもう大変かもしれません。それで不安になり、うつになる材料になるかもしれません。しかし、内なるものがそれによってさらに新たになります。なぜでしょうか。根本的に勝利して神の霊が宿っている者なので、神様は弱い私のゆえに負けるようにされる方ではありません。もっとわかりやすく申し上げると、皆さんの内側にいらっしゃる勝利者キリストは、皆さんの弱さに負ける方ではありません。むしろそれを全部ひっくり返してパウロの告白のように、それが本物の強さにつながるようにしてくださる方なのです。パウロが同じⅡコリント12：10でこのように告白しています。パウロ自身の弱さを体験して、その弱さによって負けることなどない、むしろ弱さによってさらに強くなるということを体験して告白しています。「ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです」。弱さを言い訳にして、「条件がこうだったから」「頭が悪いから、それで負けたのだよ」、そういった負け組のつぶやきなどはクリスチャンにはいりません。クリスチャンは敗北者ではありません。何もかもすべてがうまくいくということではありません。しかし、何があっても負けません。なぜなら神様が勝利なさるからです。それをほめたたえることなのです。

　ときにはクリスチャンでも人生を歩いているときに険しい環境、大変な環境にぶつかります。しかし、それが問題になりません。本当に問題でしょうか。青少年の修練会で開講礼拝のメッセージを頼まれました。この話をしようか、何をしようか今迷っているのですが、何が問題でしょうか。イスラエルの民の前に紅海が立ちはだかって、後ろからエジプトの兵隊が追いかけてきました。大変でしょう。それが本当に問題だったでしょうか。問題でしょうか。何が問題でしょうか。キリストを逃すことが問題です。クリスチャンは負けません。自分でだまされているだけです。これをほめたたえることです。そこら中の人種とは違います。苦しくても我慢して耐えて行けば良いことがあるよ。そういう話ではありません。負けることができない構図に造り変えられているのです。信じれば良いです。目の前にあることがすぐに変わらなくても信じて、根本的な勝利の上に立って、キリストにすがり、聖霊の導きを求めていればもう勝利なので、その勝利を握るようになるでしょう。それがあらかじめ勝利を味わうことです。ダビデはこのように告白しています。これはどこかのコンテストに出して優勝するために書いた詩ではありません。夕焼けを見ながら詩が浮かび上がって、それで書いたものではありません。詩編23：4「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです」。もう根本的に負けることができない存在であるし、今現在もwith、Immanuel、onenessの祝福が動いているのでこれから未来は神の絶対契約が必ず成し遂げられるはずなので、それが私の人生の理由なので死んでも問題ではありません。今申し上げました3つの内容が現実のどんなことの中でも勝利を宣言する根拠です。パウロは勝利したからといって、金持ちになって長官になったわけではありません。結局殉教して死んで去っていきました。それが問題ではありません。死んだとしても神の契約には何の支障もないから、私が死ぬか生きるかが私のポイントではなくて、私は契約の人生なので契約さえ全うされれば、それは私の勝利なのです。それは誰も止められないので死んでも勝利なのです。それが問題ではないということと、もう一つはその死でさえ契約を全うすることのために益となるように神様はすべてを動かすわけです。ですから、クリスチャンの人生には一切問題などはありません。これがクリスチャンの信仰の第一歩です。使徒の働きで申し上げると、1：1です。これができないと1：3にはいけないのではないでしょうか。ピリピ4：11-13、これはパウロは刑務所の中で書いたものです。「私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」。今ここに記されている様々なこと、それが一切問題になりません。そのすべてに勝てる、これがイエスの勝利なのです。イエス様は今も万軍の主として聖霊を通して私たちとともにおられ働いていらっしゃる方です。私たちの小さな知識、見解などによって勝手に評価してはいけません。人生の中に様々な苦難がやってきていろいろな危機に直面するときもあります。それにも打ち勝つようになります。それをほめたたえることです。ローマ8：35-37、「私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか」。これに何をプラスすればよいのでしょうか。「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」。これをほめたたえることなのです。根本的に十字架に勝利したことをほめたたえることはあるかもしれません。しかし、現実の勝利はなかなか分からないのです。言い訳、つぶやき、不安があまりにも多いのです。その苦難の中にある神の勝利を見ることができません。Ⅰコリント10：13「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」。苦難も危機も何も問題になりません。それが一番克明に現れている場面が、初代教会がスタートする場面です。使徒1：7-8を見ますと、「この今の状況でどうしましょう。植民地はいつどうなるのでしょうか」。それは問題ではありません。もうすでにそれに勝っているのだよ。あなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると地の果てにまで私の証人となります。なぜいまの植民地という国の環境や自分たちの弱さや社会的な地位が劣る点などに負けているのか。負ける理由はありません。神様は現実の中にも勝利を収める方です。それをほめたたえましょう。だから、パウロのこの告白は、私も非常に愛しているみことばです。ローマ8：28、神様はすべてを働かせて益としてくださる方です。死ぬことさえも益としてくださいます。神様はクリスチャンの現実においても勝利なさる方です。

　そして、最後に神様は結局究極的な勝利を収める方です。最後の勝利も決まっています。だから、それをほめたたえることです。まだ私たちが行ってないし、歩いていない未来、そして、人類の最後、自分の人生の最後、そこに勝利が先に決まっているのです。だから、タラッパンではあらかじめ、あらかじめという表現が多いわけです。ピリピ1：6、個人、個人を見ても「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです」。今現在いろいろあるでしょうけれども、結局キリストの血が塗られた信者であれば神様が最後の最後に完璧な勝利者として終わらせるわけです。それをほめたたえるわけです。個人の人生、クリスチャンの人生は、ピリピ3：20、天の御国の国籍がすでに与えられているので、いつ死んでも私たちが行くべきところは天の御国と保証され決まっています。誰も変えられません。究極の勝利をすでに備えていらっしゃいます。そして、個人ではなくて歴史全体を見ても、使徒1：11、このイエス様は「あなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります」。イエス・キリストが再臨なさいます。イエスの再臨は、神様の最後の最後の究極の勝利のサインなのです。そのことが黙示録19：11-13にも、白馬に乗っている王子様が走って来られて、最後にすべてをさばいてと預言されています。それが最後の勝利です。その後、黙示録21：1-22、新しい天と新しい地が与えられる。その究極の勝利、それをほめたたえることなのです。神様はそのような勝利をなさる方であり、これからなさるのではありません。神様には時間がありません。アルファでありオメガであり、神は永遠その方なので、神の中にはその勝利がもうすでになされていることなのです。だから、私たちはあらかじめ、あらかじめと信仰告白するわけです。神様は究極的な勝利をなさいました。だから、私たちの方から表現するときには、必ず勝利なさいます。その歴史の勝利をもってその間に何をなさるかというと、マタイ24：14、この福音が全世界に宣べ伝えられることによって、世の終わりの日が来ます。世界福音化、勝利なさいます。世界福音化はもうできているものなのです。使徒1：8、エルサレムから地の果てにまでイエスの証人となることが展開されていくようになるでしょう。世の終わりの日が来るそのときまで。そして、これが完璧に終わる、つまり、世界福音化の勝利をもって歴史が終わるようになります。究極的な勝利です。クリスチャンでも目の前にいろいろなことのいざこざ、もちろん大切です。しかし、それで負けた、勝ったという次元ではなかなか勝利を味わうことは難しいでしょう。その場面、場面につられるようになるしかありません。けれども、根本的に勝利なさって、誰もこれを取り消すことはできないし変えられない究極的な勝利があるのではないでしょうか。そのあいだの今の現実なのです。何も問題になりません。この勝利、ダビデの賛美よりより優れた賛美が私たちの賛美なのです。ダビデはこのような勝利を少しは見ていたかもしれませんが、イエス・キリストによって完璧に成就されたこの勝利をほめたたえて、その勝利が自分の勝利だと心から認めて感謝してほめたたえている人は悪魔が手を出すことができないし、むしろ震えて逃げていきます。死の影の谷を歩いているときでも、刑務所の中でも、皮膚がんにかかっていたときでもこの勝利をほめたたえることによって勝利を味わうようになります。

　これから皆さんの過去、今現在、未来をおいて、そのすべてにイエス様の勝利を告白しましょう。それで過去も今現在も未来もすべて感謝してほめたたえるようにしましょう。そのことによって皆さんが今日の現実の今日を生きることが大切です。先週も申し上げましたように、そこでいつも勝利者として立ちましょう。負けるかどうか天秤にかけるのではなくて、あるいは敗北者のように「どうしよう」ではなくて、どんな状況であれ、たとえ死ぬことになるとしても、コロナにかかったとしても、勝利者として立ちましょう。これが賛美です。本当にイエス・キリストの勝利をほめたたえるのであれば勝利者として立ちましょう。それで険しい環境、弱さの中で勝利を探し出しましょう。今勝利を探しましょう。そうすると、つぶやき、言い訳、不安、焦りなどは消えてなくなります。それが信仰生活です。和歌山のキャンプに行ったときに、私が予想していたこととあまりにも違う展開になったので、一瞬「うーん」となりました。これが負けです。神様は今もwith、Immanuelなので、今も契約を全うしていらっしゃるから、これがもし間違いであれば間違いの中にある教訓もあるのではないでしょうか。だから勝利者として立つべきなのに、状況が予想といきなり変わると「うーん」となってしまいます。特に日本人の場合、あらかじめ決めたルールからちょっとはずれるとすぐに戸惑って融通が利かないし、臨機応変みたいなものがとても多いのです。良い時もあるけれども緊急事態には皆「どうしようか」となってしまいます。そこに勝利があります。それを探すことが信仰生活です。それから未来をもってあらかじめ勝利を見つけ出して味わうようにしましょう。祈りの中でまず皆さんの過去、現在、未来、そこにイエスの勝利をもって、勝利のトーチをもって照らし、今まで皆さんがそれに対して思っていた敗北者の意見、感情などは全部消えるように勝利を宣言して告白し感謝を回復し、主をほめたたえるクリスチャンになりましょう。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ダビデの賛美が私たちの賛美となりますように。いやそれより優れた讃美を捧げるクリスチャンになるように神の勝利を正しくほめたたえ、そのことによって常に勝利者として立つことができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。